

清水氏庭園（しみずしていえん）

(1) 所在地 笠岡市生江浜（おえはま）

(2) 所有者 個人

(3) 概要 生江浜は寛文（かんぶん）9年（1669）に干拓堤防が完成し新田が開かれたが、それまでは遠浅の海が広がり、岩礁もあった。

清水氏は江戸時代に笠岡の町で廻船問屋（かいせんどんや）を営み、生江浜に別邸を構えていた。この別邸が後に本宅となり、現在に至っている。清水氏庭園が造られた時期については明確なことはわからないが、僧侶で俳人の蝶夢（ちょうむ）（1732～1796）が安永（あんえい）8年（1779）に清水氏の別邸を訪れ、庭園の様子等を記述していることから、この頃には庭園が存在していたことは確実である。

住宅と庭園がある敷地は、南北に延びる高台の斜面の東側に位置する。斜面裾部に細長い園池（えんち）を設け、その北東部に主屋が建つ。主屋から見ると右から左奥に向かって、斜面の裾に沿って花崗岩（かこうがん）の露岩と転石が、その手前に園池が延びる。主屋の軒先や園池の周囲には飛石が打たれ、また、斜面には階段や園路が設けられている。植栽は池の護岸や斜面の裾のクロマツと随所に配されたツツジ類を中心とする。

清水氏庭園は当該地域の造園文化の発展に寄与した意義深い事例である。

(4) 登録基準 一 造園文化の発展に寄与しているもの



所在地

★ — 清水氏庭園

● — 笠岡市役所



庭園北西部（東から）



庭園全景（西から）